

令和6年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

外国語活動・外国語

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
3 年	○個になると、自分のことや身近な事柄について話すことに自信がない児童が多い。	○変化をもたせながら、歌やチャンツを取り入れ、楽しみながら音声や表現に慣れ親しませる。 ○ペアや少人数グループの中で必然性のあるやり取りの場面を設定し、自信をもてるようにする。	○初めは単語を聞くだけだった児童も単元の最後には自信をもって英語が言えるようになった。 ○相手が決まっていると安心して話すことができる児童が増えた。
4 年	○主体的にコミュニケーションを図ることに個人差がある。	○一人一人に役割をもたせ、聞いたり話したりする活動を行う。 ○スモールステップでのコミュニケーション活動を行い、やり取りの経験がたくさんできるようにする。	○役割をもたせたことで主体的にやり取りをする児童が増えた。 ○コミュニケーション活動の場面で個別になると学習したことが活用できない児童がいることが課題である。
5 年	○相手意識をもって、聞いたり話したりすることの経験や能力に個人差が大きい。	○伝え方の工夫を楽しむことを意識させ、相手意識をもって会話ができるようにする。 ○やり取りやスピーチの場面を設定し、聞き手が分かるような伝え方、話し手が話しやすい聞き方の工夫を意識して会話ができるようにする。	○ペア等で伝え方の工夫をさせたことで、相手意識をもって会話をするようになった。 ○やり取りの相手を意識させたことで、話す速さや動作を加える工夫をして伝えようとする児童が増えた。
6 年	○外国語を聞いたり話したりすることの経験や能力に個人差が大きい。	○語彙のみでなく、文で伝え合うことも意識できるよう、スモールトークでパターン化したものを取り入れる。 ○相手を変えて繰り返しやり取りをすることで、自信をもって話すことができるようにする。	○パターン化したものであれば文で伝え合うことができるようになった。 ○児童と相談しながら繰り返しやり取りの経験をしたことで、相手の話を注意深く聞いたり自信をもって話したりする児童が増えた。

